



外用薬の使い方

外用薬を正しく使用していますか？

自己判断で使用せず、症状に合わせて薬の効果を最大限に引き出せるように、正しい使用方法を確認してみましょう。



目薬

目薬は通常、1回の点眼につき1滴で十分です。点眼前は、せっけんでよく手を洗いましょう。下まぶたを軽く引き、



容器の先がまぶたやまつげに触れないように注意しながら点眼します。点眼後はしばらくまぶたを閉じるか目頭を軽く押さえましょう。ただし、白内障などの手術後は、傷口に触れることもあるため目を閉じるだけにしましょう。あふれた点眼液は清潔なガーゼやティッシュで拭きとってください。目薬によっては、点眼後洗顔した方がいいものもあります。

2種類以上の目薬を使用するときは、5分以上間をあけましょう。すぐにさすと、最初の目薬が押し出されて、効果が弱くなってしまいます。

子どもに点眼する場合、動いている時に点眼すると傷ついてしまったり、泣いている時に点眼すると涙で薬が流れてしまったりしますので注意しましょう。

直射日光の当たらない涼しい所に保管し、自動車内や暖房器具の近くなどの高温となる場所には放置しないでください。目薬によっては冷蔵庫に保管するものもありますので、薬剤師に確認してください。

眼軟膏

手をせっけんでよく洗い、下まぶたを軽くひき、チューブの先がまぶたやまつげや眼球に触れないように注意しながら、チューブを少し押しまぶたに薬をつけます。目を閉じ、軟膏が溶けて全体に広がるまで少し待ちます。あふれた軟膏は清潔なガーゼやティッシュで拭きとってください。綿棒にチューブから軟膏を少し取り、下まぶたに薬をつけるという方法もあります。

目薬と眼軟膏を一緒に使用する場合には、眼軟膏を後に使用してください。

医師の指示がある場合にはそれに従って使用してください

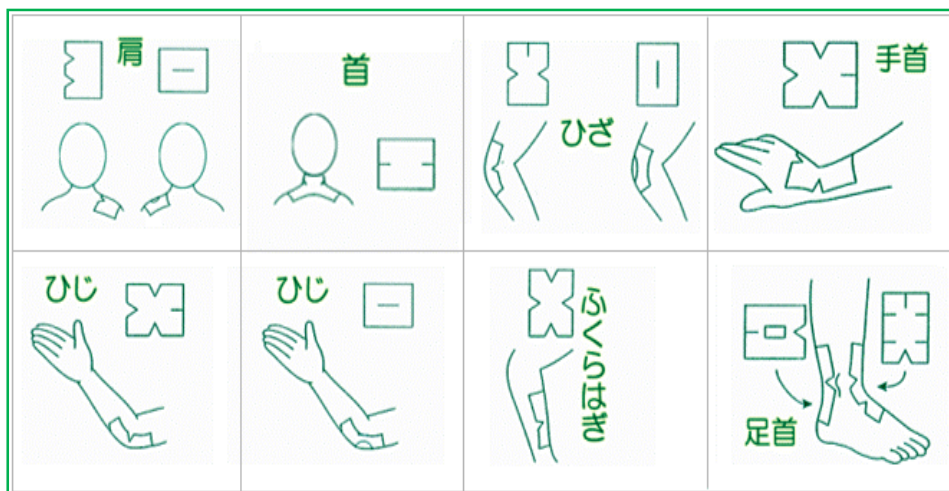
湿布薬・はり薬

痛み止めなどの湿布薬は、はった部位に効果があらわれます。かぶれを防ぐため、最低1日1回は、はりかえましょう。



温感タイプのものは刺激を感じやすいので、お風呂に入る30分以上前にはがしてください。副作用を防ぐために貼った部位を日光に当てないように注意が必要なものもありますので、薬剤師に相談してください。

湿布にハサミで切れ目を入れるとはりやすくはがれにくくなります。



心臓の血管を拡張したり呼吸を楽にするなどの効果のあるはり薬は、薬剤が皮膚から吸収されて効果を発揮します。水分や汗を十分に拭き取ってから使用してください。毎日使用する場合は、少しずつ場所を変えるとかぶれの予防になります。

医師の指示がある場合にはそれに従って使用してください

坐薬

坐薬は、先のとがっているほうを肛門に挿入します。薬の先端を少し水でぬらすと入りやすくなります。小児の場合は、おむつを替えるときの体勢で入れ、しばらくそのまま押さえておいてください。



挿入後、出てしまった場合は、薬がどのくらい吸収されたのかわからないので薬剤師に相談してください。一般的に1～2時間して効果が無い場合でも次の使用まで5～6時間はあけましょう。

使用していない坐薬を保管しておくときには、冷蔵庫に入れて保管しておきましょう。

詳しい使い方やわからないことは、お気軽に薬剤師にご相談ください。

(全日本民医連「知ってトクする薬の話」/ 参天製薬株式会社 参照)



オーロラ薬局

TEL 019-635-1233

FAX 019-635-4555

オーロラ薬局 沼宮内店

TEL 0195-61-3883

FAX 0195-62-6868

オーロラ通信はバックナンバーを含めホームページでもご覧になれます。

<http://www.iwate-aurora.com/>